

深圳レポート

2024年中国国慶節連休の消費成長動向

中国の消費市場は、2024年の国慶節（建国記念日）連休中に力強く回復し、文化観光と食品・飲料消費が活発な経済パフォーマンスを見せた。国内旅行は延べ7.65億人、総支出は7,008.17億元に達した。

	旅行者受入数	旅行収入
広東省	5848.1万人、前年同期比6.2%増	538.9億元、前年同期比8.9%増
河南省	7991.6万人、前年同期比5.1%増	565.9億元、前年同期比15.5%増
四川省	5531.8万人、前年同期比11.1%増	348.4億元、前年同期比9.5%増
北京市	2159.6万人、前年同期比18.35%増	268.85億元、前年同期比11.67%増

全体消費データ

Meituan(ライブ・サービスeコマース・プラットフォーム)が発表したデータによると、2024年の国慶節連休中、全国の生活サービス産業の店舗内消費は前年比41.2%増となった。この成長率は消費市場の回復を反映しているだけでなく、レジャー・娯楽、飲食、ショッピングに対する消費者の強い需要を示している。この需要は主に都市のビジネス街、大型ショッピングセンター、多くの人が集まる観光地周辺に集中している。これらの地域では、観光客の1日平均消費量が大幅に増加した。

特に外食産業が好調で、連休中の5日間で、レストランでの消費は33.4%増加し、夜の消費は44.8%増加した。こうした消費動向の変化は、外食産業のみならず、余暇生活全体への期待の高まりにも反映されている。飲食業界の回復を後押ししたのは、休日中の家族団らんと友人達との集まりによる需要の大幅な増加であった。

同時に、多くの都市や観光地が「食と文化の祭典」や「ナイトバザー」などの特別イベントを開催し、郷土料理の人気を高めただけでなく、消費者の参加意欲も刺激した。こうした活動は特に若者の間で人気があり、ソーシャルメディアを通じて料理体験を共有し、オンラインとオフラインの消費の融合をさらに推進した。

文化観光市場の回復

2024年の国慶節連休中、文化・観光関連の消費需要が大幅に増加した。Meituanのデータによると、連休の最初の4日間、「古建築・古寺」の検索数は前年比126%増加した。この現象は、伝統文化を重視する社会が拡大し続けるなか、消費者も歴史的・文化的遺産を旅行計画に組み込んでいることを示している。山西省の英賢木塔や雲岡石窟などのニッチな景勝地は、その豊かな文化的背景と歴史的価値から、今年の国慶節旅行の人気スポットとなっている。

観光客はもはや伝統的な「打卡」(「出退勤のタイムカードを押す」という意味で、観光地を訪れること観光客にとっては、出退勤の時間を証明するためにタイムカードを押すように、一種の証明なのだと言える)の観光のみにとらわれず、もっと深い文化体験に重みを置くようになっている。観光客は名所旧跡を見るだけでなく、その背景にある歴史や文化的な物語を深く知ることを望んでいる。特に、人気ゲーム「黒神話: 悟空」に関連する文化的背景は、山西省の数多くの観光スポットをよりホットなものにしている。

Ctrip(オンラインチケットサービス会社)のデータによると、県や小さな町の旅行市場は特に好調だった。県域観光の1日平均受注額は前年比40%増加し、ホテル予約は最大50%増加した。ニッチな観光地の台頭により、九寨溝(四川省)、シャングリラ(雲南省)、安吉(浙江省)などは人気の観光地となり、観光客の注文は50%以上増加した。これらの数字は、消費者がもはや大都市での旅行体験を求めず、自然景観と人文的モニュメントが共存する地域を探検する傾向にあることを示している。

ケータリングとナイトタイムエコノミーの急速な発展

国慶節連休中、ケータリング業界は消費市場の重要な一角として非常に好調だった。Meituanのデータによると、店内で

の消費は前年比33.4%増、夜間の消費は44.8%増と高い伸びを示した。全国的に、多くの都市でナイトタイムエコノミーが観光客誘致の重要な要素となっており、夜市や夜食バザールは消費者に豊富な消費の選択肢を提供し、特に若者や家族連れが夜間消費の主役となっている。

たとえば、北京の「簋街」夜市や上海の「城隍廟」夜市は、国慶節の連休中、多くの観光客や地元の人々を迎えた。都市のナイトライフ・シーンは、食の天国というだけでなく、社交と娯楽の中心でもある。夜間の飲食消費の急速な伸びは、バー、娯楽施設、文化公演、その他の夜間活動など、隣接する産業の発展にもつながっている。

「味覚観光」もまた、新たな旅行形態として台頭してきている。多くの観光客が、その土地の名物を味わうために特別に旅行先を選んでいる。この種の観光は、ケータリングの消費を促すだけでなく、地域経済の発展も促進する。いくつかの都市では、オンライン・プラットフォームとオフラインのフード・マーケットを組み合わせることで、地域の特色を生かしたフード・バザール・イベントを創出しており、この新たな消費形態は大きな可能性を示している。例えば、広州や上海で開催された「黒真珠レストランフードバザール」のようなイベントは、地元住民だけでなく、多くの外国人観光客をも魅了した。

※黒真珠レストランガイドは、中国版ミシュランガイドのようなもので、中国のグルメの基準を初めて打ち出し、調理のレベル、レストランの水準、伝承と革新という3つの角度から中国飲食文化の特色を備えたレストランの評価体系である。

都市と地域の消費実績

消費実績は、都市や地域によって大きく異なる。北京、上海、成都、深センのような一線都市は、一日平均観光客消費額が69.6%増と、特に素晴らしい消費額を示している。これらの都市は、多くの国内観光客を惹きつけるだけでなく、アウトバウンド・ツーリズムやインバウンド・ツーリズムの重要な拠点にもなっている。特に大規模なビジネス街や有名な観光スポットの周辺では、観光客の消費力が強く、都市全体の消費の伸びを牽引している。定番の人気観光スポットに加え、ライブハウス、美術館、入浴センターなど、いくつかの地方娯楽プロジェクトは、若い観光客に「新5A観光スポット」(中国のトップレベルの観光地)と呼ばれ、新たな観光地となっている。

一方、二線・三線都市や一部の地方都市でも、消費の勢いが強かった。Ctripのデータによると、国慶節連休中、低層都

市の観光受注は前年比40%以上増加し、特に小さな町や県の民宿の予約は増加率が50%に達した。これらの地域の観光資源の開発は徐々に成熟しており、多くの観光客を引きつけるだけでなく、地域住民の生活の質と経済収入を向上させている。

多様化するビジネスモデルとコラボレーション

国慶節連休中、ビジネスモデルの多様化の傾向も示した。生活サービス産業における業界の垣根を越えた協力が常態化し、小売、景勝地、食品など幅広い分野に及んでいる。Meituanは、この連休中、多くの商業者が現地のアミューズメント、小売、食品業界との協力を通じて、新たな消費者エコシステムを構築したと指摘した。

特に、消費パターンの変化と市場需要のアップグレードを背景に、企業は多様な製品とサービスのイノベーションを通じて消費者のさまざまなニーズに対応している。例えば、南京紅山動物園が発売した白面猿「ドウドウ(杜杜)」の周辺商品は観光客に大人気で、西安肉まんや山西刀削麺に関連するキャラクター商品も景勝地で売れ筋商品となっている。

投資機会と経済動向

国慶節連休中の消費データから、ビジネスと投資の状況に新たな光が当てられた。Z世代消費者の間で、ブランド体験や文化観光に対する需要が大幅に高まっている。例えば、イマーシブ体験や漢服(漢民族の伝統衣装)旅行写真のような新しいタイプの観光プロジェクトは、文化観光市場の重要な一部となりつつある。ケータリング、文化観光、多角的産業の国境を越えた協力が、今後の成長に期待をもたせている。

2024年の国慶節連休の消費データは、中国経済の活力と回復力を示している。文化観光市場の復活、レストランとナイトタイムエコノミーの成長、異業種コラボレーションの台頭は、すべて消費パターンの変化を直接反映している。Z世代の台頭という背景を考えると、おそらくブランドの文化的意味合いと社会的責任が、この世代の消費者を惹きつける鍵になるだろう。

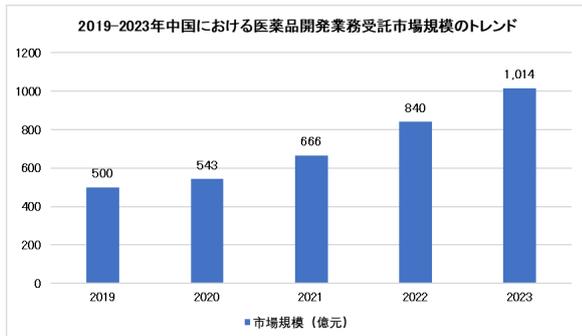
華騰生物：CRO市場における大型動物モデルのプレーヤー

社名	広州華騰生物医薬科技有限公司	英語名	Hua Teng	
代表者	謝水林	URL	https://www.htscience.com/	
所在地	広州市黄埔区碧山大街29号B1201号室			
売上 (RMB)	—	従業員 (人)	—	創業年
登録資本金	1501.9222 万人民币元			
サービス内容	遺伝子編集と動物実験のCROプラットフォームであり、大型実験動物モデルの研究開発、繁殖、およびバイオ医薬の研究開発受託サービスを一体化したハイテク企業			

中国医薬業界の急速な発展、特に革新薬の研究開発の台頭に伴い、CRO市場の需要が増加している。CRO企業は、前臨床研究を提供することで、医薬品や医療機器の研究開発のスピードを向上させる重要な存在となっている。グレーターベイエリアは生物医薬の革新拠点として、多くの企業がこの分野の競争に参加している。

※CROとは医薬品開発業務受託機関のこと。製薬会社などの企業から臨床試験や前臨床研究などの業務を受託し、アウトソーシングで支援する企業。

『2024～2029年中国バイオ医薬アウトソーシング(CRO/CMO/CDMO)市場の需要予測と発展トレンド見通し』によると、2019年から2023年のCRO市場の年平均複合成長率(CAGR)は19.35%に上っている。



広州華騰生物医薬科技有限公司(以下、「華騰生物」)は、大型動物モデルの構築と遺伝子編集技術に特化し、医薬品および医療機器開発のCROサービスを提供する。華騰生物は広州に5,000㎡のSPF級小動物および通常級大型動物実験室を運営し、さらに佛山、深セン、重慶に全額出資の子会社を3つ設立し、総実験室面積は10,000㎡を超える。

※SPFとは有害な病原体をもたない動物のこと。医学実験や食用家畜で実用化されている。実験環境や研究成果の正確性を保証するために使用される。

主な製品

核心業務は、遺伝子編集を用いた大型動物モデル(ミニブタ、ウサギ、犬、サルなど)の構築と応用に焦点を当てる。これらのモデルは、人間の疾病の発症プロセスを模倣することで、医薬品および医療機器の開発に効果的な前臨床サポートを提供する。

主要な開発領域には、心血管系、神経系、代謝性疾患などが含まれ、疾病のメカニズムの解明や薬物の有効性・安全性の検証を支援する。さらに、移植用の実験豚モデルも開発し、臓器移植の研究を促進する。

医療機器の開発では、大型動物モデルの特長を活かし、心臓外科、整形外科、脊椎外科、眼科の分野における革新的なテストプラットフォームを提供する。

サービス

実験動物モデルの構築から全プロセスにわたる研究開発支援を含むサービス体系を構築している。

医薬品のターゲット開発、薬効スクリーニング、安全性評価のサービスを提供し、顧客の革新薬が順調に前臨床試験を通過できるよう支援する。

また、実験動物の飼育代行・保存サービスや、細胞・分子生物学実験も実施し、基礎研究および製品開発を支援する。

競合企業

上海南方模式生物科技股份有限公司(「南模生物」)

南模生物は、遺伝子修飾動物モデルと関連技術サービスを提供し、マウス、ラット、ゼブラフィッシュなどの繁殖、薬効評価を専門とする。6,000種類以上の標準化モデルを保有し、研究機関、製薬企業、CROにサービスを提供している。

江蘇集萃藥康生物科技股份有限公司(「集萃藥康」)

集萃藥康は、マウスモデルの研究開発、製造、販売を行い、モデルのカスタマイズ、繁殖管理、薬効分析も提供している。収益の半分以上が商品化マウスモデルによるもので、「斑点鼠(スポット・マウス)計画」を通じ遺伝子ノックアウトシステムを構築している。

南模生物と集萃藥康はともにマウスモデルに特化しており、その事業内容が比較される中、市場の関心は小白鼠に集中している。それに対し、華騰生物は、大型動物モデルという独自の強みを武器に、国内外のCRO企業との競争を繰り広げている。

新製品

華騰生物は現在、複数の新しい大型動物モデルの開発を進めている。その中には、心血管疾患および神経系疾患に対応した小型豚モデルも含まれている。これらのモデルは、新薬開発や疾病メカニズムの研究において重要な役割を果たし、顧客の研究開発プロセスを支援する。

発展計画

華騰生物は、2024年9月23日に数千万元のBラウンド資金調達を完了した。これに先立つ2023年のA+ラウンドと合わせ、これまでに累計約1億円の資金を確保している。今回の資金は大型動物モデルライブラリの構築、CROサービスの拡充、市場とブランドの拡大、医薬品と医療機器の研究開発および成果の事業化の促進などに使用される予定である。

華騰生物は、大型動物モデル分野における専門性と高度な遺伝子編集技術を武器に、CRO市場で急成長を遂げている。今後、遺伝子編集を活用した大型動物モデルの市場がをどのようにつけん引していくかが、注目される。

中国若年層、株式投資に積極的参入

最近、乱高下を見せる株式市場とそれに伴う色々なエピソードが話題となっています。

先月の9月24日に、中国銀行の総裁が金融緩和政策と不動産と株式市場の支援策を発表したことをきっかけに、同日から中国株は歴史的な上昇率を記録しました。



挙げられるのは、銀行の預金準備率・主要政策金利である7日物リバースレポ金利・2軒目の住宅購入時の最低頭金比率・既存の住宅ローン金利の引き下げになります。

また、証券会社、ファンド、保険会社が人民銀行の資金を利用して株式を購入できるようにするため、スワップファシリティを設立などの制度の策定も予定されています。一方、9月の米国の利下げが、今中国政府の抜本的なテコ入れ政策の発動のきっかけとなったという見解もあります。

予想を上回る一連の政策の導入により、中国A株市場の主要指数は連続5営業日で20%以上上昇し、上海、深セン、北京の3大取引所のデータによると、9月30日時点でのA株の総時価総額は84兆6,700億元となり、わずか5営業日の間に16兆6,100億元と大幅に増加したとのことです。なお、香港市場も連動して

唯来企業管理諮詢（深圳）有限公司
副總經理

姜香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



連日過去最高の出来高を更新しました。

絶好のチャンスを逃すまいと、個人による株式市場への参入も一気に増加し、急激にアクセスが殺到したため、大手証券会社数社は、いずれもシステムがフリーズし、取引ができなくなるハプニングも発生しました。9月27日には、取引開始後の集中した買い注文の流入により、上海証券取引所の株式オークション取引で取引確認が遅延するという異常事態が発生し、一部の証券会社のアプリが一時的にシステム障害を起こしたとの発表もありました。

強気相場が始まって以来、新規に証券取引口座を開設する人も増え、前期比2倍増えた証券会社も少なくないとの発表もありました。2000年代、1990年代、1980年代生まれの若年層を中心に、その中には在学中の学生も少なくないという傾向が明らかになっています。例えば、国泰証券の場合、1週間に開設された新規口座の約70%が1990年以降生まれと2000年以降生まれとのことでした。広発証券の場合、新規顧客の年齢分布は比較的バランスが取れており、1980年以降生まれと1990年以降生まれが依然として主力となっているが、2000年以降生まれの口座開設意欲も高い傾向を示したとのことでした。

特に、1990年代半ば～2010年代前半に生まれたZ世代は、インターネットやソーシャルメディアが高度に発達した時代に育ち、独特な消費習慣や投資志向を持っているのと、口座開設から取引までスマートフォンのAPPを上手に利用できるのも若年層のユーザーにとって魅力的なのでしょう。

専門家の中には、経済効果も限定的であり、少々過熱しすぎとの見方もありますが、今回の大規模な景気刺激策と若年層の積極的な参入により、年末に向けて中国株がどれだけ堅調な動きを見せるかが期待されています。



深圳未来创新服务中心
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区粤海街道海天二路 19 号盈峰中心ビル 2301
TEL:86-135-3089-3085
<https://micsz.jp/>